

教員活動評価実施報告書

令和 6 年度

埼玉大学

教育・研究等評価室

1. 概要

本学では、「教員個人の活動状況を点検することによって、その活動の一層の活性化を図り、本学の教育・研究の質の向上と運営等の改善に資する」という目的の下に、例年、教員個人の教育研究等の活動評価を実施している。令和5年度の教員活動についても、下表のとおり評価を実施した。

実施期間	教員活動報告書提出期間：令和6年6月20日（木）～7月31日（水） 部局長評価期間：令和6年9月2日（月）～11月22日（金）
対象者	令和6年4月1日現在で本学に在籍している教員 ※新規採用教員、休職中の教員及び教諭は除く
対象領域	4領域（教育活動、研究業績、大学運営への貢献、社会への貢献）
評価対象期間	原則過去3年間
評価対象者	386名（提出率99%）

2. 評価の実施体制、方法

「埼玉大学における教員活動評価の基本方針」、「埼玉大学における教員活動評価の実施要項」、各部局の教員活動評価実施要領に従い、評価対象教員が提出した令和5年度実績分の教員活動報告書に基づいて、部局長が所属教員の評価を行った。

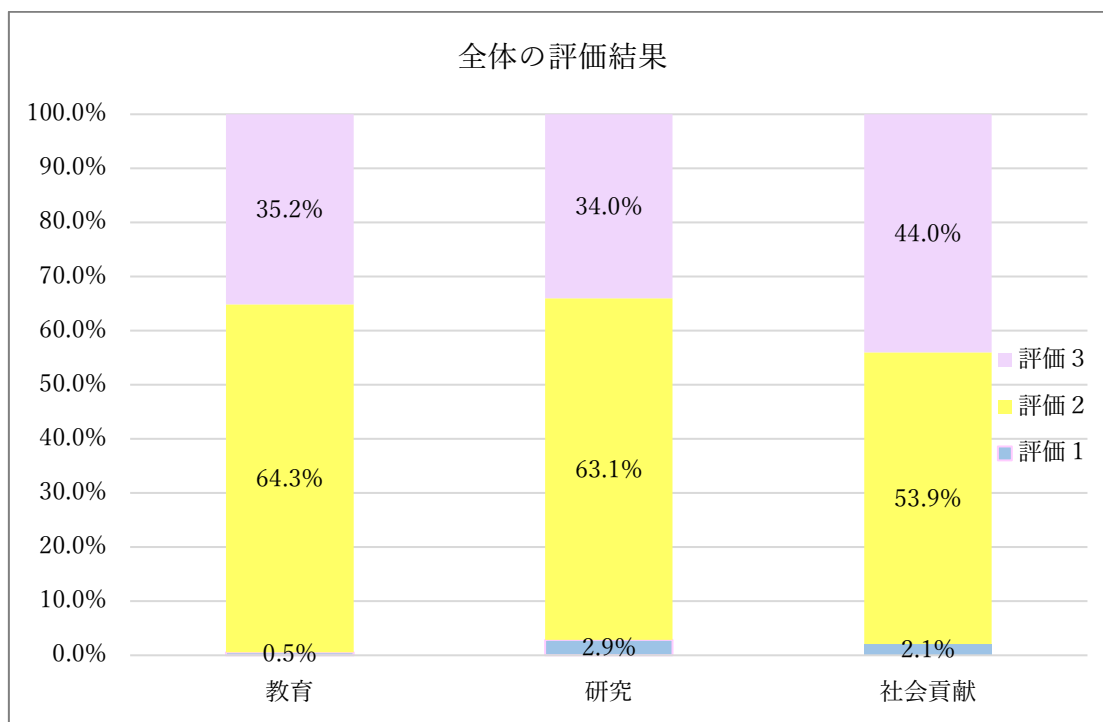
3. 部局別評価対象教員数

人文社会科学研究科	79名
教育学部（附属教育実践総合センター含む）	83名
理工学研究科	197名
教育機構	11名
研究機構	10名
情報メディア基盤センター	2名
ダイバーシティ推進センター	4名

4. 評価の尺度

3. 活動は極めて優れている
2. 活動は期待される水準に達している
1. 活動は不十分で改善を要する

5. 全体の評価結果



埼玉大学は、地域活性化の中核となり、世界/日本の教育研究拠点として光を放つことを目指して、令和4年度からの第4期中期目標・中期計画期間においては「埼玉大学 Action Plan 2022-2027」という新たなアクションプランの下で、「地域人材・グローバル人材育成の基盤強化」、「研究力強化と社会的課題を解決するための共創拠点の形成」、「地域のダイバーシティ環境推進拠点機能の強化」、「大学ガバナンス機能の強化」という4つのビジョンをたて、様々な取組を行っている。これを踏まえ、教育研究拠点、地域活性化というキーワードに対応した教員活動である教育、研究、社会貢献の3領域について、教員活動の評価結果を概観する。

大学全体でみると、教育領域で3の評価を受けた教員の割合は約35.2%、2の評価は約64.3%、1の評価は約0.5%であった。研究領域では、3の評価は約34.0%、2の評価は約63.1%、1の評価は約2.9%であった。社会貢献領域では、3の評価は約44.0%、2の評価は約53.9%、1の評価は約2.1%であった。前回の評価と比べると、3の評価を受けた教員の割合が教育領域で7.4ポイント、研究領域で5ポイント増加し、社会貢献領域で10.5ポイント低下している。

各部局の評価は、今年度も全体として概ね適切に行われていると評価することができる。もっとも、部局横断的に見ると、領域によっては各部局ごとに評価の分布が異なっている。部局によって評価基準が異なるために単純な比較ができないことはもちろんであるが、3の割合の相対的に高い領域のある部局には、より高い水準を目指しての評価基準の検討を望みたい。社会貢献領域では、人文社会科学研究科以外では1の評価は0%であったのに対

し、人文社会科学研究科は 10.1%と突出している。これは部局による評価基準の差だけによるものではなく統計上の誤差以上の差があるのではないかと危惧される。

令和 6 年度から新たな教員組織である学術院が発足したので、部局間の評価に偏りのない方法を検討すべきであろう。部局長コメントは、例年通りかなり丁寧に記載いただいた。ご尽力に感謝する。評価及び改善の取組みを可視化することにより、そこから改善点を見出し、部局長には所属教員に必要な助言をお願いしたい。

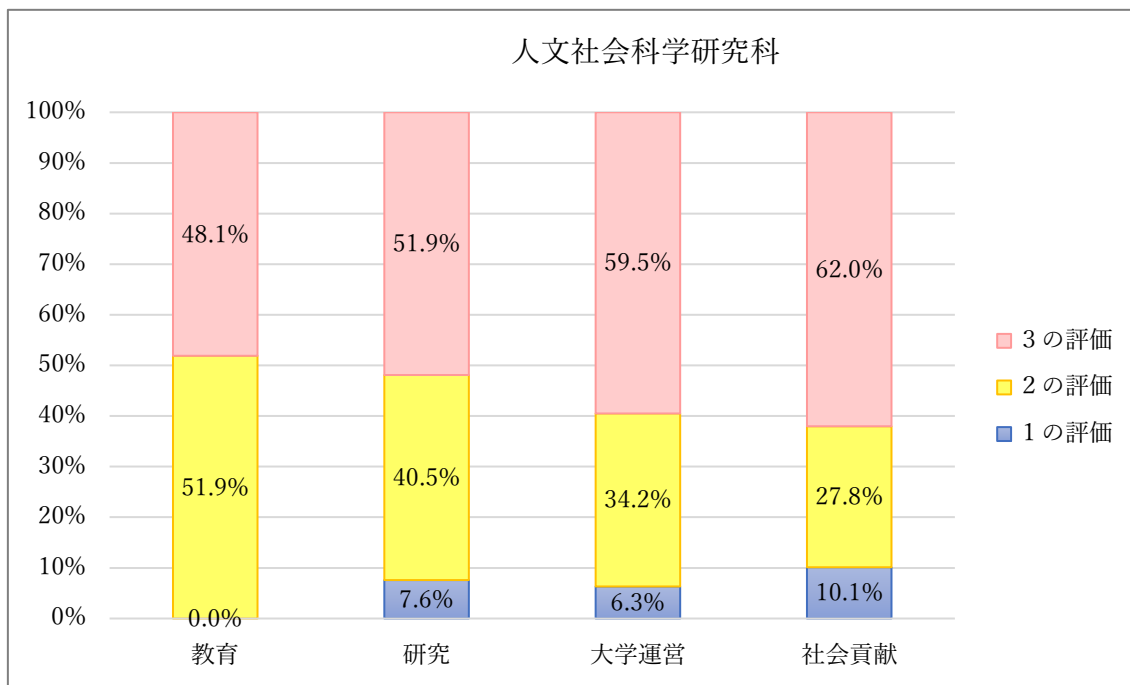
また、本学の教員活動の優れた点を外部に積極的に公表していくことも必要となるので、そのような活動について特記事項として積極的にコメントで言及することも求めたい。

毎年のように教員活動報告書を提出しない教員がいると聞いている。該当部局長から、強く指導していただきたい。

令和 4 年度からスタートした第 4 期中期目標中期計画期間も中間である 3 年目が終わろうとしている。各教員には、第 4 期中期目標中期計画の達成に向け、活動の一層の向上に努めることを望む。

6. 部局別評価結果

(1) 人文社会科学研究科 (評価対象人数：79 名)



	教育領域		研究領域		大学運営領域		社会貢献領域	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3 の評価	38	48.1%	41	51.9%	47	59.5%	49	62%
2 の評価	41	51.9%	32	40.5%	27	34.2%	22	27.8%
1 の評価	0	0%	6	7.6%	5	6.3%	8	10.1%

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とならない場合があります。

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

12ポイントの教員14名、11ポイントの教員21名、10ポイントの教員16名

②評価の低い教員数

6ポイントの教員2名

③評価結果の総括、問題点等

人文社会科学研究科では、11ポイント以上の評価の高い教員が約44%、10ポイント以

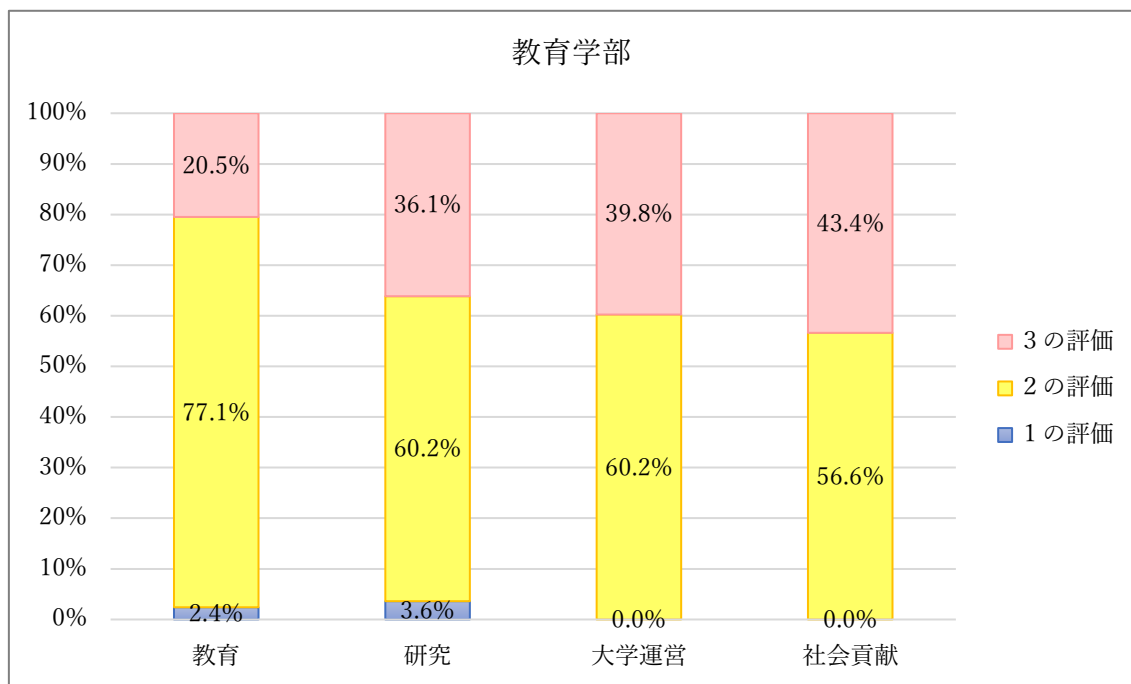
上の教員は約 65%、9 ポイント以上の教員は約 81%を占めることから、令和 5 年度の教員活動は研究科としてたいへん良好であったと評価できる。とりわけ、教育活動においては 3 ポイントの教員が 48%、2 ポイント以上の教員が 100%、研究・開発活動では 3 ポイントの教員が約 52%、2 ポイント以上の教員が約 92%を占めており、教育研究という大学教員としての基盤的な領域において十分な活動が行なわれていると評価できる。

人文社会科学研究科は、教員の専門としては人文学、社会科学の広い領域を含み、かつ教養学部と経済学部では教育課程と研究遂行においてそれぞれの特質があるが、教員活動評価の実施においては、「人文社会科学研究科教員活動評価実施要領」によって統一的な基準を設けて評価に取り組んでいるところである。同要領については構成員からの意見も踏まえ、代議員会で毎年検討を加えて必要に応じて改訂を行なっている。

④特記事項

特になし

(2) 教育学部 (附属教育実践総合センター含む) (評価対象人数: 80 名)



	教育領域		研究領域		大学運営領域		社会貢献領域	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	17	20.5%	30	36.1%	33	39.8%	36	43.4%
2の評価	64	77.1%	50	60.2%	50	60.2%	47	56.6%
1の評価	2	2.4%	3	3.6%	0	0%	0	0%

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100% とならない場合があります。

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

教育活動: 17 名、研究開発活動: 30 名、大学運営: 33 名、社会貢献: 36 名

②評価の低い教員数

教育活動: 2 名、研究開発活動: 3 名、大学運営: 0 名、社会貢献: 0 名

③評価結果の総括、問題点等

【教育活動】

教育学部の特徴として授業担当数が総じて多いため、授業担当数自体は大きく評価に反映させていない。評価の高い教員は「教育の質の向上に関する取り組み」でとりわけ工

夫が見られた教員である。

【研究開発】

教職課程認定を維持するために、多くの教員が自分の専門から離れた分野の授業を担当する必要があり、教職課程認定に耐えうる授業に応じた業績も求められる。多くの学内業務、社会貢献の中で多くの授業に追われ、研究業績の蓄積に苦勞している教員が少なからずいると思われる。

【大学運営】

学部・全学委員会などの負担に偏りが見られた。教育学部では、学部委員会の改革と負担の平準化を進めている。

【社会貢献】

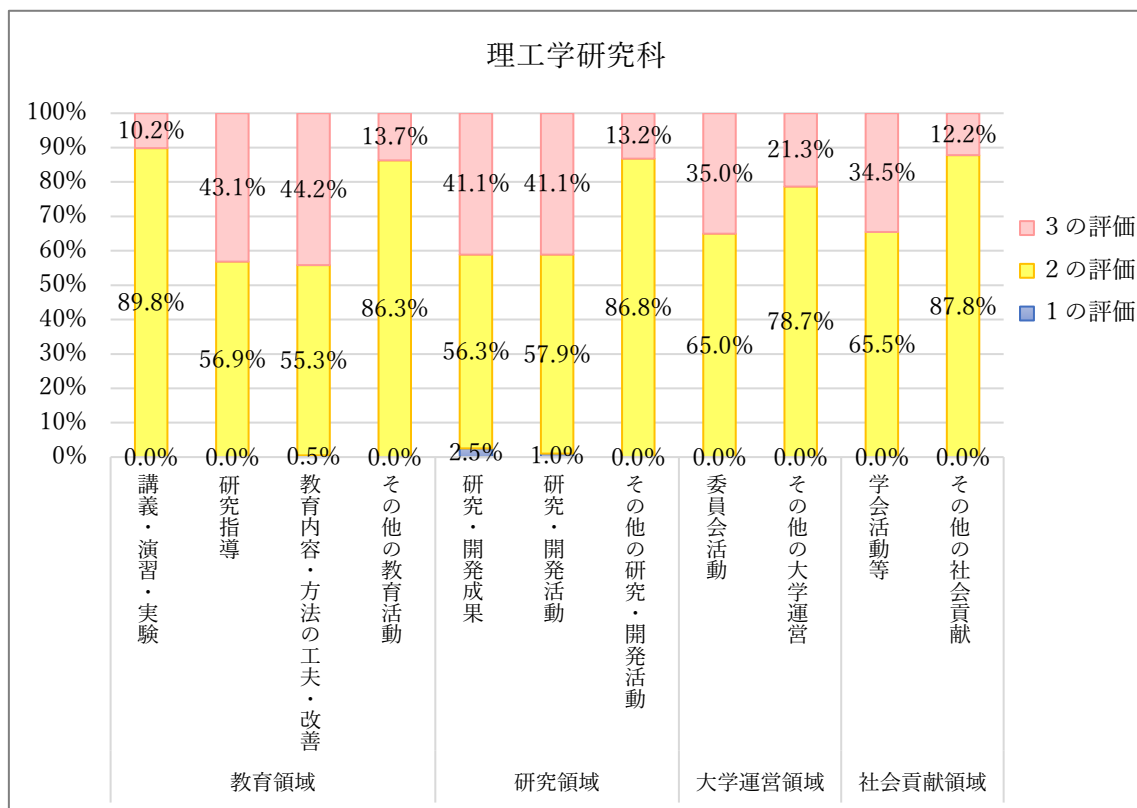
教育・研究とのバランスが難しく、社会貢献が過剰になると教育研究に負担となる場合もある。特に若手教員は教育・研究に力を入れ、研究業績を積み上げる必要がある。社会貢献をどのように評価するか難しい面がある。

総合して、教員活動報告書を提出した教員のほとんどは、対象とした3年間の範囲で、いずれの項目も概ね期待される水準に達していた。

④特記事項

教育活動、研究開発活動で評価が低い教員は、繰り返し提出依頼をしたが、結局、教員活動報告書の提出がなく、本人記載のデータが得られなかったためである。

(3) 理工学研究科 (評価対象人数: 197 名)



	教育領域							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	20	10.2%	85	43.1%	87	44.2%	27	13.7%
2の評価	177	89.8%	112	56.9%	109	55.3%	170	86.3%
1の評価	0	0.0%	0	0%	1	0.5%	0	0.0%

	研究領域					
	研究・開発成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	81	41.1%	81	41.1%	26	13.2%
2の評価	111	56.3%	114	57.9%	171	86.8%
1の評価	5	2.5%	2	1%	0	0%

	大学運営領域				社会貢献領域			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	69	35.0%	42	21.3%	68	34.5%	24	12.2%
2の評価	128	65.0%	155	78.7%	129	65.5%	173	87.8%
1の評価	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100% とならない場合があります。

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

1点高い教員 30 名、2点高い教員 33 名、3点高い教員 38 名、4点高い教員 31 名、5点高い教員 22 名、6点高い教員 16 名、7点高い教員 6 名、8点高い教員 1 名、9点高い教員 2 名

②評価の低い教員数

2点低い教員 2 名、1点低い教員 2 名

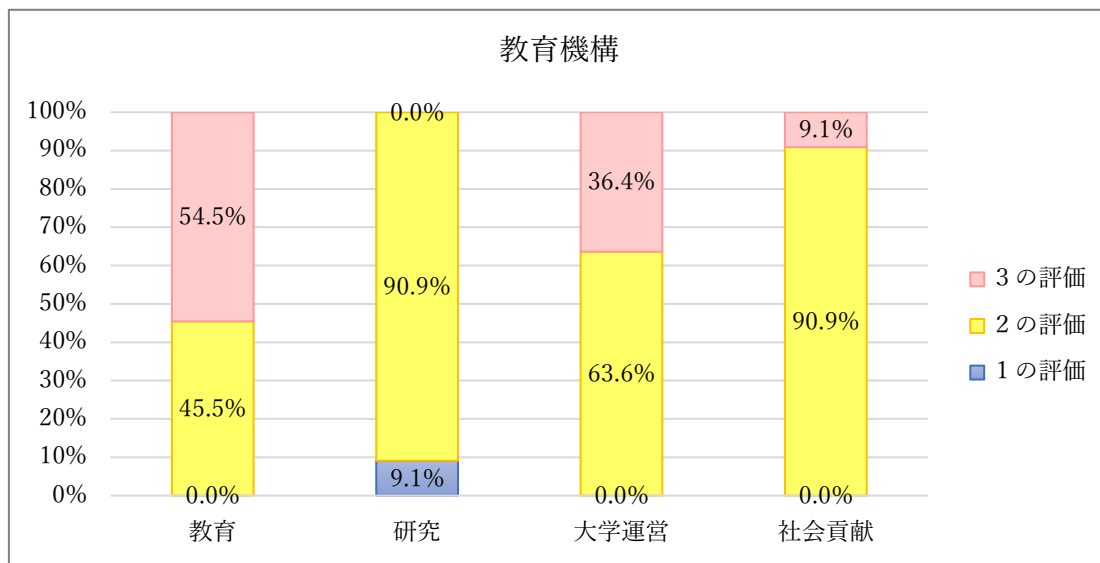
③評価結果の総括、問題点等

評価結果の待遇等への反映については引き続き検討する必要があると感じるが、評価自体は、各教員にとっては定期的に自身の活動を振り返るよい機会であり、他方で、部局長にとっては構成員個々の状況、ひいては部局全体の状況を把握するための貴重な機会になる。また、所見欄を通して、部局長から教員個々人に、個々人の状況に応じて適切なメッセージを発することができる公式には唯一の機会であり、この意味で、高く評価している点や今後への期待等をできるだけ具体的に所見欄に記し、今後、各教員のアクティビティが一層高まるように努めた。

④特記事項

特になし

(4) 教育機構 (評価対象人数: 11 名)



	教育領域		研究領域		大学運営領域		社会貢献領域	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	6	54.5%	0	0%	4	36.4%	1	9.1%
2の評価	5	45.5%	10	90.9%	7	63.6%	10	90.9%
1の評価	0	0%	1	9.1%	0	0%	0	0%

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

対象教員 11 名のうち 10 ポイントの教員 4 名、9 ポイントの教員 2 名。

②評価の低い教員数

全員 8 ポイント以上であったので、評価の低い教員はいなかった。なお、8 ポイントの教員は 5 名であった。

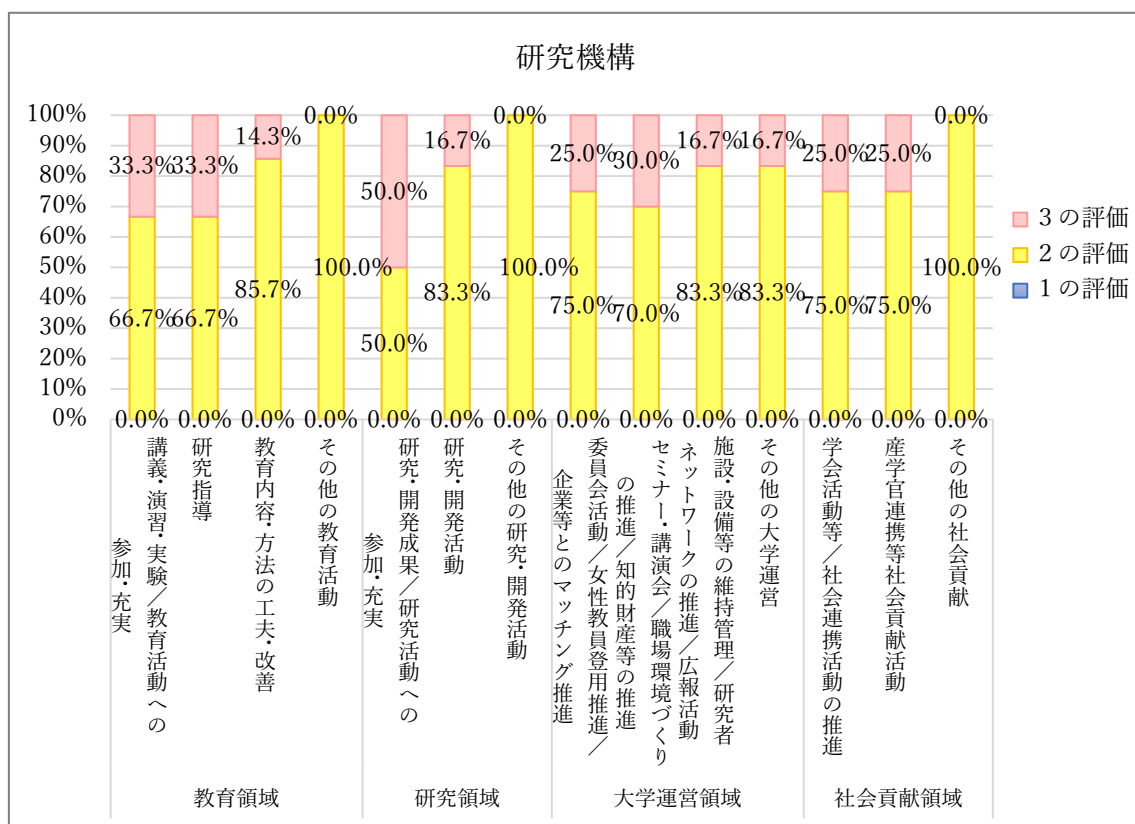
③評価結果の総括、問題点等

各センターとも公平に評価が行われている。教育機構の教員の場合、教育のポイントが高くなりがちであり、そのことを積極的に評価すべきであると思われる。

④特記事項

特になし

(5) 研究機構 (評価対象人数: 10 名)



	教育領域							
	講義・演習・実験／教育活動への参加・充実		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	3	33.3%	3	33.3%	1	14.3%	0	0%
2の評価	6	66.7%	6	66.7%	6	85.7%	7	100%
1の評価	0	0%	0	0.0%	0	0%	0	0%

	研究領域					
	研究・開発成果／研究活動への参加・充実		研究・開発活動		その他の研究・開発活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	3	50%	1	16.7%	0	0%
2の評価	3	50%	5	83.3%	6	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%

	大学運営領域							
	委員会活動／女性教員 登用推進／企業等との マッチング推進		セミナー・講演会／職 場環境づくりの推進／ 知的財産等の推進		施設・設備等の維持管 理／研究者ネットワー クの推進／広報活動		その他の大学運営	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3 の評価	2	25.0%	3	30.0%	1	16.7%	1	16.7%
2 の評価	8	75.0%	7	70.0%	5	83.3%	5	83.3%
1 の評価	0	0.0%	0	0.0%	0	0%	0	0%

	社会貢献領域					
	学会活動等／社会連携活 動の推進		産学官連携等社会貢献活 動		その他の社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3 の評価	2	25.0%	2	25.0%	0	0%
2 の評価	6	75.0%	6	75.0%	2	100%
1 の評価	0	0%	0	0%	0	0%

※研究機構では、各センター等で評価項目が異なるため、各評価項目の合計人数が一定ではない。

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

ひとつ以上の領域において、平均 2.5 ポイントを超える評価を受けた教員：2 名

②評価の低い教員数

該当無し

③評価結果の総括、問題点等

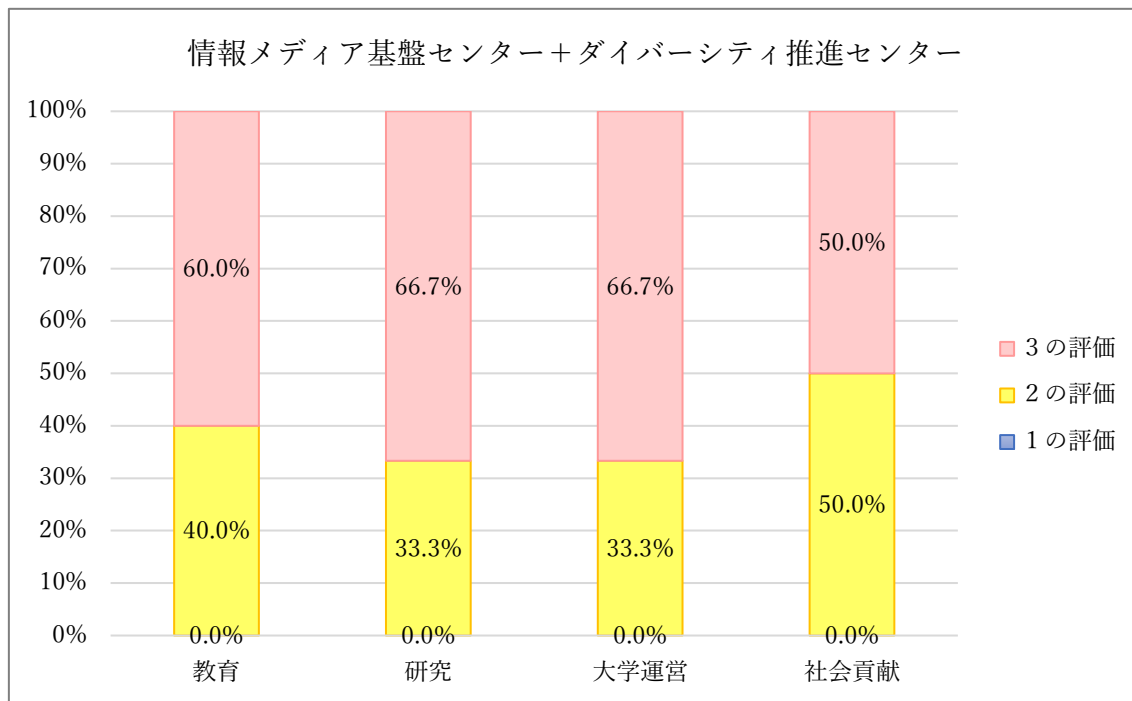
研究推進室（3 名、内 2 名はテニュアトラック教員）、科学分析支援センター（4 名）、オープンイノベーションセンター（2 名）及び社会変革研究センター（1 名）を担当する計 10 名を対象に評価を行った。担当する室・センターのミッションの違いにより評価項目・基準が異なるため、評価結果から教員間の相対比較を単純に行うことはできないが、いずれの教員も担当業務に積極的に取り組み、概ね良好な成果を上げている。業務が多様化しているため、評価項目・基準の継続的な見直しが必要である。

④特記事項

特になし

(6) 情報メディア基盤センター（評価対象人数：2名）+ダイバーシティ推進センター（評価対象人数：4名）

※評価対象人数が少数のため合算して記載をする。



	教育領域		研究領域		大学運営領域		社会貢献領域	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	3	60.0%	4	66.7%	4	66.7%	3	50.0%
2の評価	2	40.0%	2	33.3%	2	33.3%	3	50.0%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

○情報メディア基盤センター 部局長のコメント

①評価の高い教員数

0名

②評価の低い教員数

0名

③評価結果の総括、問題点等

情報メディアセンター所属の教員は研究活動を十分に行っている。問題点はない。

④特記事項

特になし

○ダイバーシティ推進センター 部局長のコメント

①評価の高い教員数

4名

②評価の低い教員数

0名

③評価結果の総括、問題点等

新規教員2名（令和5年12月着任1名、令和6年4月着任1名）に加え、すでに在籍していた教員2名の、計4名が、円滑に連携を行いながら、多数のプロジェクトや活動に関わる業務遂行に貢献したことを評価した。

④特記事項

WISE-Pの女子中高生理系進路選択支援の取組の一環として、本学の理系女性研究者紹介YouTube動画を多数作成し、効果的に活用した。また、「教職員向け性の多様性学生対応ガイド」を作成し各部局に配布するとともに、啓発ビデオを作成し、大学内のダイバーシティ環境の推進に貢献した。